

高校入試基礎<公民> 価格と景気の考え方

学習塾1945

Youtubeのチャンネル登録もよろしくね(^^♪



価格ってどうやって決まる？（；^ω^）

まずは、直感的に考えてみよう！

人気が**ない**と価格（値段）はどうか？
安売りをするので、**下**がる。

人気が**高**いと価格はどうか？
高くても売れるので、**上**がる。

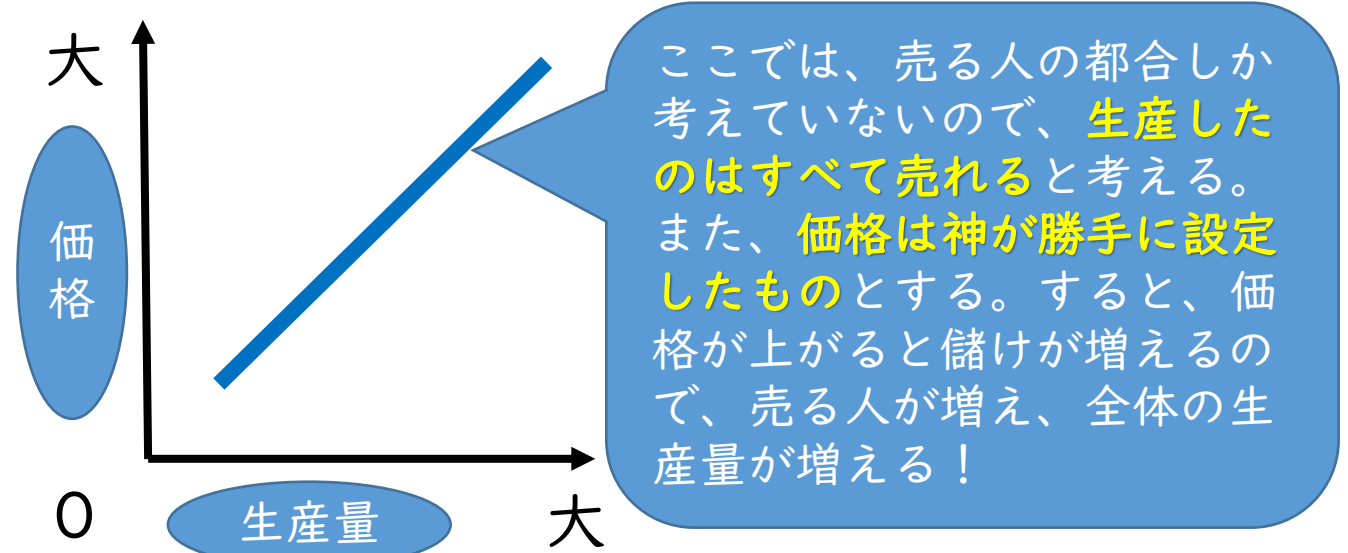
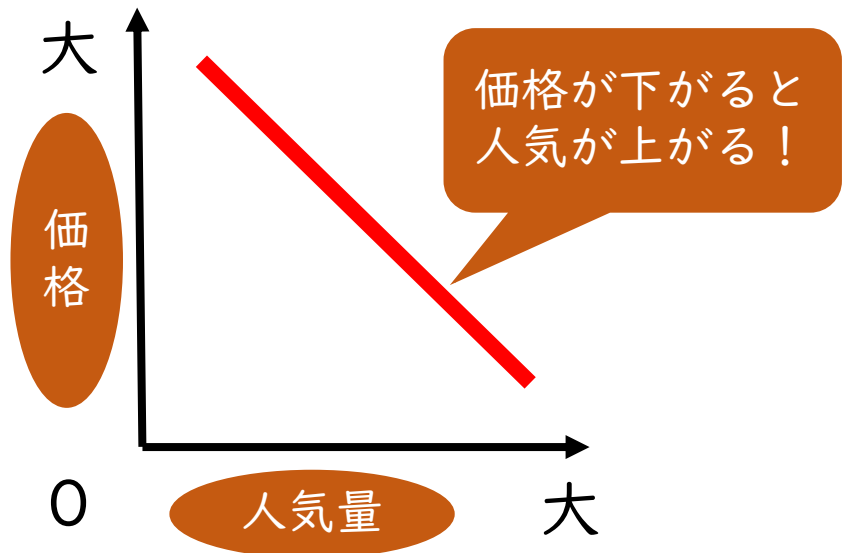
売る人が**少**ないと価格はどうか？
すぐに売り切れになりやすいので、**上**がる。

売る人が**多**いと価格はどうか？
売り切れない可能性が高くなるので、**下**がる。

価格ってどうやって決まる？（；^ω^）

次に、理論的に考えよう。

- ・ 買う人の商品を欲しい気持ち（人気）⇒ **需要（左図）**
- ・ 売る人が商品をつくる量（生産量）⇒ **供給（右図）**



価格ってどうやって決まる？（；^ω^）

じゃあ、理論的に価格はどうか決まるの？

買う人だけの都合の線と、売る人だけの都合の線を合体系せると、価格（均衡価格）と取引量が決まる！

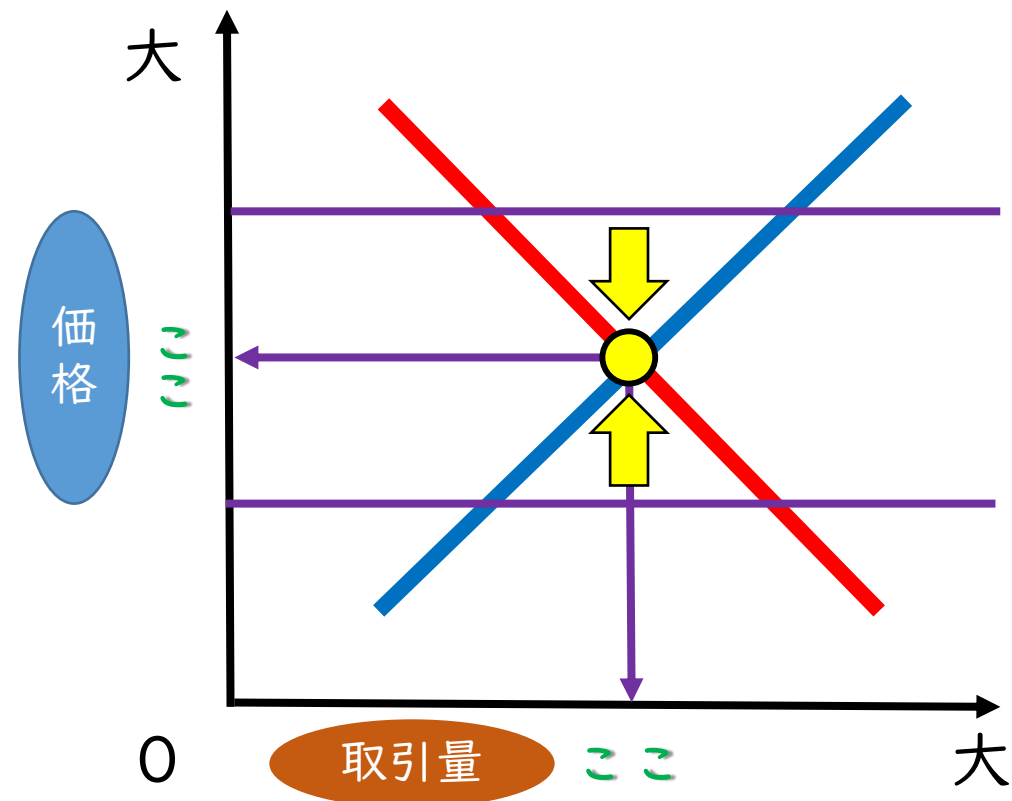
もし、均衡価格よりも高い価格だったら？

供給量 > 需要量なので、売れ残りが生じ、価格は均衡価格まで下がる。

もし、均衡価格よりも低い価格だったら？

需要量 > 供給量なので、品不足が生じ、価格は均衡価格まで上がる。

どういう価格であっても、最終的に均衡価格で落ち着く！



景気って何よ？(・ω・)ん？

景気とは、金回りのこと。つまり、景気が良い（好況）ときは、モノがすぐ売れる状況、逆に悪い（不況）ときは、なかなかモノが売れない状況を示す。

特に、景気が悪いときは、「景気を良くしよう」と言われる。確かに、これは正しいが、景気の理解としては不十分だ。正確に言えば、景気はバランスが大切。実は、景気は良すぎてもいけないのである。

景気が良すぎると、モノがすぐ売れるので価格が上がる。そしてそれを繰り返すと、どんどん価格が上がるので、例えば今10円のうまい棒が、極端な話、100万円になるかもしれない。そうになると、普段の買い物が不便になり、一気に景気が悪くなる危険性がある。

ちなみに、たとえ話(・ω・)ん？

景気の話は、お風呂のお湯加減で考えてもわかりやすい。景気が良くなることを、「景気が過熱する」というが、経済がうまくいくためには、「ちょうどいいお湯加減」、つまり、(より正確に言えば)少し景気が良い状態が理想なのだ。

もし、景気が良くなりすぎたら、どうなるだろう？景気が過熱し、水温が60度にも70度にもなってしまったら、もはや誰も入れないだろう。

そしたら、何とかお湯を冷ますために、大量の氷を入れることになる。しかし、国の経済の話になれば、この調整は困難だ。下手な対応をしたら、今度は逆に氷が冷たすぎてしまう。つまり、大不況になってしまうのだ。

こういった具合で不安定だと、国民は安心して暮らせないだろう。だから、バランスよく、上げすぎたら下げる、ちょうどいい感じがいいのである。

高校入試基礎<公民> 価格と景気

学習塾1945

Youtubeのチャンネル登録もよろしくね(^^♪